



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

誰もがふつうに暮らせる最低賃金の 実現めざし、各地で青年の声響く！

7月31日早朝、中央最低賃金審議会において地域別最低賃金改定額の目安について答申が出されました。これを受け、各都道府県の地方最低賃金審議会（地賃）でも審議が進められており、続々と答申が出ています。

そんな中、「地域間格差をなくし、全国一律最低賃金制度の実現」、「最低賃金 1000 円へ今すぐ引き上げ、早期に 1500 円の実現」を求めて、各地で青年が声を上げています！



愛知 愛労連では、今年も意見書を7月16日に地方最低賃金審議会に提出し、7月29日に記者会見を開きました。記者会見では、愛知の青年を代表して全労連青年部常任幹事の西脇啓太さん（写真左・自治労連）と愛労連青年協幹事の青木俊樹さん（写真右・生協労連）が、自身が身をもって体感した最低賃金生活体験について報告しました。

最賃生活を体験した青年の声

「食費を抑えられるのは実家暮らしの人だけ。1人暮らしでは到底不可能。友人の結婚式が大きな負担になったという体験者がいた。友人の幸せな話が自分の生活を苦しめるかもしれないと思うとつらい」、「単組の青年6人でチャレンジしたがほとんどが最賃では生活できなかった。昼食代を削りすぎて体調を崩し、途中でリタイアせざるを得ない状況の青年もいた。病気になっても病院に行かず、市販の薬で治そうとしたりしても月に5万は足りない」など体験者の声を伝え、「これで本当に憲法で保障された生活になっているのか？この状況は変えていかなくてはいけない」「誰もが安心して普通に生活できるよう、1日8時間働けば人間らしい暮らしができるよう、最低賃金を今すぐ1000円以上に引き上げてもらいたい」と訴えました。

大阪 大阪では7月25日に大阪労連青年部長の河合 成葉さん（全労連・全国一般）が地賃で意見陳述しました。自身が5月の1ヶ月間、初めて体験した最賃生活について「各種税金や年金、保険料、家賃を差し引くと、ひと月に使えるお金は9万1753円。大型連休や週末の出張も多く、特に食費や交通費がかさんだ結果、6万5000円の赤字になった。最賃生活中、食費を抑えるために昼食代はできるだけ300円以内に収まるように意識した。しかし、帰りが遅くなったり、残業などで疲れて自炊ができない夜は外食することもあったし、会議後にみんなで居酒屋に行ってしまうと、1回の食費に少なくとも2〜3000円ほど必要だった」と報告しました。

仲間とのかけがえのない時間も必要

食費について、「職場や組合の仲間たちとご飯を食べ、お酒を飲みながら、仕事の悩みや他愛のない話をする時間はかけがえのないもの。また、大阪労連青年部の部長として、青年と交流できる場はとても貴重で、その場でしか得られない情報、聞くことができない話もたくさんあり、私にとってはお金には換えがたい交流の場だった。人との繋がりが希薄になると、孤独すら感じる。それは『人間らしい暮らし』とは言えない」と、ただ生活するだけのものではないことを訴えました。

若者が不安ではなく希望を抱ける賃金に

また、非正規で働く友人や後輩の「結婚を考えられるだけの賃金が欲しい」、「奨学金を返すためにアルバイトを3つ掛け持ちしながら毎月5万円の返済をしているが、返し終わるまではあと20年かかる」、「自分の趣味にも時間を使いたい」、「人間らしく働き自立した生活がしたい」などの切実な声を紹介し、「自分の時間を犠牲にしながら非正規で働く青年たちは、将来にどんな夢を抱けば良いのか。青年たちの要求は決して贅沢なものではなく、当たり前の権利。どれも当然に国として保障されるべきもの」と強く訴えました。





愛媛

愛媛労連青年部は、今年も7月26日に地賃へ意見書と署名を提出し、愛媛労連青年部の堀川孝行事務局次長（写真左・自治労連）が意見陳述しました。愛媛労連が行った春闘アンケートの内容に触れ、「他県から引っ越してきたが最賃が低く、派遣社員でも時給1000円を切っていることに驚いた。時給1000円以上でないと、毎月税金など支払うと生活が厳しい」、「愛媛の現行の最賃764円ではまともな暮らしができない」など、労働者の実態を陳述しました。

ただ生きるためではなく人間らしく生きるために

地域間格差の是正とともに、「ただ生きるためだけの賃金」であってはならないこと、「健康」と「文化」が保障されなければならないこと、それには全労連が実施した最低生計費試算調査により、時給1500円

が必要。「ぜいたくをせず、つつましいながらも『健康』で『文化的』な生活を送るために必要なものは何か、改めて支払い能力ではなく、『生活の質』や『人間として生きる水準』を最優先に考慮し、適正な金額を決定していただくことを強く要望する」と訴えました。また、同日に松山市駅前で行った宣伝を行い、全労連青年部常任幹事でもある稲葉美奈子さん（写真右・愛媛一般）が、愛媛労連青年部として道行く人々に「最賃は誰もが人間らしく暮らせる賃金でなければならない」と訴えかけました。



秋田

7月31日、秋田では福祉保育労秋田地本・執行委員長の伊藤博和さんが地賃に対し意見陳述しました。「親元から通っている職員がほとんどで、今の賃金では一人暮らしは厳しい。たとえ志を高く持った就活者がいて、たまたま就職した事業所が運悪く最低賃金ギリギリだった場合、生活をまともに送れず辞めてしまう。保育士の人手不足解消のため都市部では賃金を自治体独自で助成する制度を運用している。国の制度以上の助成ができない自治体との賃金格差が大きく開いており、実際、東京都では保育士一人に4万円を独自につけている。福祉の分野では人手不足が死活問題」と現場の実態を述べました。

安心して子育てできる社会にしたい

また、自身の現状にも触れ、「経済的問題で息子の兄弟は諦めざるを得なかった。現状では生活を切り詰めても貯蓄がほとんどできず、これからの学費が不安。子どもが希望する部活など好きなことをさせてやりたいくても制限が必要になる可能性もある。仕事は

とてもやりがいがあるのに、自身や家族の生活を削って仕事をしているような状態」と語り、秋田県最低賃金改正決定にあたっては、「人口減少の歯止めを重視するべき。私は秋田県が子育てするには絶好の場所だと自信を持って言える。だからこそ秋田で子育てをしてもらいたい。秋田の将来のため、県内の最賃を引上げ、都市部との格差を解消し、若者が子どもを産み育てられるようにしてもらいたい」と訴えました。



兵庫

兵庫労連は8月1日に地賃に対し、兵庫労連幹事（青年担当）の西村貴史さんが意見陳述を行ないました。最賃の大幅引き上げ、全国一律制度の確立をめざす必要性について、全労連の最低生計費試算調査の資料を示しながら、「月に必要な給料を時給換算した場合に、25歳単身者・賃貸ワンルームマンション（25㎡）に居住、月150時間労働をした場合、都市部でも地方でも、平均で1500円必要であることが分かっている。現在、19の都道府県で調査しているが、フルタイムで働いたとして、時給換算で1,330円、現実的に月150時間働いたとしたら1541円が必要」と強く訴えました。

最低賃金が上げれば地元で働くきっかけになる

さらに、県内の元町大丸前で行ったシールアンケートについて触れながら、「最低賃金の地域間格差は人口流出の理由となっている。最低賃金が上げれば地元で働くきっかけになるか？の問いに対してほとんどの人がYESと回答した。NOと回答した人については、都市部で働きたい、お金ではないと答えた人ですが少数派であることは明らか。このデータから、地域間格差は兵庫県の人口減少の原因の一つであると言える」と市民の声と地元の実情を審議会へ届けました。

神奈川

7月15日、神奈川では「fight for ¥1500『希望のダンプカーデモ』」が行われ、神奈川労連青年部も含め200人が参加し、桜木町駅前からみなとみらい21地区をダンプカーを先頭にデモ行進。「全国一律最賃制度の実現、中小企業支援を1000倍に、時給は1500円に、最賃上げて日本経済も豊かに」と訴えました。

せやろじゃんおじさん登場！

現在、ネット上で話題沸騰のせやろがいおじさん。ダンプデモには名前を横浜弁にもじった「せやろじゃんおじさん」が登場。ダンプカーの上から最賃引き上げと全国一律最賃制度の必要性を訴えました。



↓ せやろじゃんおじさんの動画はこちら ↓

<https://www.youtube.com/watch?v=ofaLynRUJko#action=share>

動画の中で生き生きと訴えていきたい！

せやろじゃんおじさん（次ページ写真・医労連）は、サウンドデモやSNSの活用が重要視される中で、どうやって多くの市民にアピールするかを考え抜いた結果、動画による配信を重視する想いか



ら誕生。「今後はもっと磨きをかけ、第2弾、第3弾を展開し、我々の活動がネットを通じて全国一律最賃制度の必要性を訴えられたらいいと思います」と熱く語ってくれました。

青年の心をつかむ新しいパフォーマンス

ダンプデモに参加した神奈川労連青年部書記長の戸倉大介さん（港湾労組）は、「医労連の青年達がダンプの荷台に上がりノリノリの音楽とともに今すぐ最賃全国一律 1500 円をとコールを上げました。中でも『せやろじゃん？おじさん』はその訴えとコミカルさで、沿道の注目を一身に集めていました。これからは青年の心をつかむ新しいパフォーマンスの1つとして先頭切って活躍してほしいです。また、神奈川の青年として負けじと盛り上がっていきたい」と語りました。



全国一律最賃制度の実現までがんばろう！

今年度は C・D ランクの引き上げが注目されましたが、中賃答申は蓋を開けてみれば引き上げ額は例年と同様、しかも、地域間格差をさらに 2 円拡大する内容でした。

平均で 901 円となりましたが、これは加重平均であり、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、京都、大阪を除く 40 道県は平均以下の水準です。A ランク地域の金額が上がれば加重平均は上がることとなり、全体の底上げにつながるとは言えません。また、目安額通りに決まった場合、地域間格差は 224 円から 226 円に拡大し、年収にすると格差は年間 40 万円超となります（1800 時間）。さらに 10 月から消費税 10% が強行された場合、ひとり 5 万円もの負担増になります。そうすると、賃金引上げ分は消滅します。実質は年収 200 万円にも届かないという指摘もあります。

各地方での答申も出始めていますが、異議申し立てなどの取り組みなど、地賃段階での運動がますます重要となってきます。全国一律最賃制度の実現までがんばりましょう。

A ランクの都府県は日本の国土のわずか 6.3% です。全労連調べでは、その A ランクの地域で全労働者の 43.38% が就労しています。他のランク別の労働者の割合は B ランク 20.7%、C ランク 21.41%、D ランク 14.4% となっています。このことから、都市部への労働者の流出が表れており、全国一律最賃制度の確立と、1000 円、1500 円への引き上げは喫緊の課題と言えます。

【参考】都道府県のランク分け

- A 東京 神奈川 大阪 愛知 埼玉 千葉
- B 京都 兵庫 静岡 三重 広島 滋賀 栃木 茨城 長野 富山 山梨
- C 北海道 岐阜 福岡 奈良 群馬 岡山 石川 福井 新潟 和歌山 山口 宮城 香川 徳島
- D 福島 島根 愛媛 山形 岩手 秋田 大分 熊本 青森 宮崎 長崎 佐賀 高知 沖縄 鳥取 鹿児島

*** 全労連青年部 今後のとりくみ ***

- ★Ring! Link! Zero2019 in Nagasaki 8月7日 18:30 ~ 20:00 於：長崎市民会館体育館
- ★原水禁大会長崎大会第9分科会青年のひろば 8月8日 9:00 ~ 15:00 於：長崎市民会館体育館
- ★全労連青年部第32回定期大会 9月28日~29日 於：全労連会館2Fホール

* 青年の元気なとりくみやニュースをお寄せください *
< youth@zenroren.gr.jp > まで(^▽^)/♪